

スタートアップとともに スマートシティに進化する高雄市

—未来へ飛躍する台湾の港都—（前編）

日本台湾交流協会高雄事務所次長 是枝 憲一郎

1. はじめに

台湾南部最大の都市である高雄市は、近代以降、鉄道や港湾の整備とともに砂糖、米やバナナの集散地として栄えた。1960年代以降は、鉄鋼業や石油精製業などの重化学工業の街として台湾の経済発展を支えるとともに、世界でも有数の港湾都市として栄えてきた。

この高雄市は、今、スタートアップの育成を通じて「スマートシティ」へと進化し、新たな発展を遂げようとしている。

2021年12月6日、「亜湾新創園（アジアベイ・スタートアップ・テラス）」が、高雄市内の經濟部経済園區管理局が運営する「高雄軟体科技園區（高雄ソフトウェアパーク）」内に所在する「鴻海ビル」内に開設された。それに加え、「4つの優先（産業構造の高度化、雇用機会の創出、重要交通インフラ整備、大気汚染の解決）」を掲げて当選した陳其邁・高雄市長の下で高雄市政府による様々な取組みが行われ、日本企業も参画して高雄市のスマートシティ化が積極的に推進されている。

今回は前編として、高雄市政府が推進するスマートシティ化を見据えたスタートアップ支援政策と現場の様子をお届けする。

2. 高雄市政府のスタートアップ支援政策

高雄市政府は、高雄市のスマートシティ化を加速させ、台湾南部におけるインテリジェントテクノロジー産業の発展を支援し、地元の雇用や経済拡大のため、台湾当局が開設したスタートアップ支援機関である「亜湾新創園（アジアベイ・スタートアップ・テラス）」に加え、高雄市政府自身が

3つのスタートアップ支援施設を運営することで大中小様々な企業を高雄市に誘致することにより、新しいビジネスエコシステムの構築を目指している。

現在、175以上の台湾内外の企業と133のスタートアップが「亜湾」プロジェクトのもとで高雄に拠点を置くなどイノベーションに向けた機運は大きく高まっている。

3. 高雄市政府のスタートアップ支援施設

（1）概要

高雄市政府は、産業の高度化と転換を促進するとともに、スマート技術に関わるスタートアップ企業のクラスターを形成するため、①大港創艦メガベイ（MEGABAY）、②高雄インテリジェント・テクノロジー・イノベーション・パーク（高雄智慧科技创新園區（KO-IN 智高點）、③デジタルコンテンツ・クリエイティブセンター（數位内容創意中心（DAKUO））の3つのスタートアップ支援施設を開設している。また、デジタルコンテンツ産業やAI、IoT、フィンテックなどのスマート技術に関わるスタートアップに対してカウンセリングを行っており、これまでに合計115社のベンチャー企業の相談を受けるなど、台湾南部における魅力的なイノベーションクラスターの創出に取り組んでいる。

（2）現地訪問

今回、高雄市政府経済発展局のご協力を得て、高雄市政府が運営するスタートアップ支援施設である①大港創艦メガベイ（MEGABAY）と②高雄インテリジェント・テクノロジー・イノベーショ



「メガベイ」内部（筆者撮影）

ン・パーク（高雄智慧科技創新園區（KO-IN 智高點））を訪問し、それぞれの現場を実際に確かめることができた。

ア 大港創艦メガベイ

① 概要

「大港創艦メガベイ（以下「メガベイ」）」は2023年10月27日、高雄で最も高いビルでランドマークである「高雄85ビル」の19階に設置された。この施設には5つの独立したオフィスと40の席があり、現在12社（独立オフィス4社、共創スペース8社）が入居している。

「メガベイ」はデジタル化とネットゼロ化という二つの現代的な課題への対応を軸としている。また、ベンチャー企業が世界の産業におけるトレンド変化を把握できるよう、国際的なアクセラレーターや投資のためのマッチング機会を提供することで、台湾南部のスタートアップのための完

全な国際エコシステムを構築することを目指しており、「Meet Taipei」にも出展する予定となっている。

2024年3月には、沖縄ITイノベーション戦略センター（ISCO）及びコソポイノベーションセンター（ISK）との間でそれぞれ協力覚書を調印し、国境を越えた新しいイノベーションエコシステムを構築している。



「メガベイ」内部（筆者撮影）



「メガベイ」内部（筆者撮影）



「メガベイ」内部（筆者撮影）

「メガベイ」の階下には成功大学のスマート半導体及びサステナブル製造学院と中山大学の国際金融研究学院があるなど、地域のテストベッドにもなっている。

金曜日の夜には、資金調達に関するファイナンスや特許に関する知財専門家による講演など、毎月入居者に聴取して決めたテーマに関する講演会を開催し、入居者への情報提供を行っている。

経済部と協力して、外国のスタートアップを招いて高雄の企業と交流する活動も行っており、高雄市政府もサポートしている。外国の展示会に出展する際には展示会費用について支援を行っているが、7月に京都で開催されたスタートアップカンファレンスであるIVS2024 KYOTOへの参加に力を入れるなど、相手国として日本に力を入れている。

高雄市の特徴は、中国鋼鉄や日月光（ASE）といった、台湾北部にはない重化学工業企業が数多く立地していること。このため、IoTを活用したスマートファクトリー実現や環境保護対策に係るスタートアップの紹介や、テストベッドの提供を行っている。高雄市に多く立地する重化学工業関連の国営企業にスタートアップ単独ではアプローチが難しいものの、「メガベイ」の入居企業であれば、高雄市政府を通じてそれら企業に容易にアプローチできることは大きな強みとなっている。

「メガベイ」は2024年4月より日本最大級のオープンイノベーションプラットフォームを運営するCreww株式会社が運営している。同社は日本に1万社あるとされるスタートアップのうち

8千社のデータベースを有しており、1,350社の協業を実現している上、日本の地方自治体とも協力しているなど、日本に強みがある。

「メガベイ」の売りは国際的であること。台湾人は英語、日本人は日本語を利用して意思疎通できるプラットフォームを構築し、それを通じて日本人と台湾人が意思疎通を行えるようになっているほか、日本への留学経験を有する専門スタッフもいる。

② 「2024台日新創企業加速国際論壇」

2024年6月12日、「メガベイ」において「2024台日新創企業加速国際論壇」と題したイベントが行われた。日本企業5社と台湾のスタートアップ8社が登壇し、来賓の高・高雄市経済発展局副局長と林・台湾経済部中小及新創企業署副組長をはじめ、日本、台湾、韓国から総勢50名ほどが参



イベントの様子（高雄市経済発展局提供）



イベントの様子（高雄市経済発展局提供）



「メガベイ」内部（筆者撮影）

加した。このイベントでは、日本企業と台湾のスタートアップとの間で4件の協力意向書が締結されたほか、日本企業と台湾のスタートアップの業務紹介が行われ、プレゼンテーション終了後には活発な交流が行われるなど、日本企業と台湾のスタートアップとの協業が進展した。

このイベントに参加されていたCrewwの水野取締役COOからは、台湾におけるスタートアップ育成はこれまでのところ政府部門主導の印象が強いが、スタートアップ育成は大手企業や中堅企業も関わらないとできないので、今後は一層、台湾の大手や中堅企業も巻き込んでいけるようにしたいとお話を伺った。また、日本企業関係者からは、台湾と日本の親和性の高さが窺えたといった声や、台湾のスタートアップの日本市場への関心の高さを再認識したといった声も聞かれた。

イ 高雄インテリジェント・テクノロジー・イノベーション・パーク（高雄智慧科技創新園區（KO-IN 智高點））

① 概要

高雄インテリジェント・テクノロジー・イノベーション・パーク（高雄智慧科技創新園區（KO-IN 智高點、以下「KO-IN」））は2019年6月21日に正式にオープンした。AI、IoT、ブロックチェーンその他のスマート技術やアプリケーションのベンチャーやスタートアップの育成を行っており、台湾のベンチャーキャピタルである誠研創新股份有限公司が運営している。16の独立オフィスと30

席の共創スペースがあり、現在26社（独立オフィス13社、共創スペース13社）が入居している。

台湾ではTSMCや鴻海のような製造業企業が主流であることから、「KO-IN」では製造業とソフト関係のスタートアップが協業することにより、新しいサービスを産み出すことに主眼を置いている。製造経験のないスタートアップが有する優れた技術をどのように紹介したりマッチングしたりするかについてのプラットフォームを有しており、TSMCに代表されるような製造企業との融合を可能としている。iPhoneはハードがあるからこそそこに搭載するソフトウェアが販売できるように、「KO-IN」ではソフトだけでなくハードが必要との思想を有している。

「KO-IN」では、年間の売上額が1億元の中小企業とスタートアップとの協業により製品を最終形まで仕上げた上で、TSMCのような大企業の案件を手がけるとのやり方をとっている。これは、高雄市政府が、やや規模の大きな企業が小企業とともに大企業の仕事を受けるとのビジネスモデルを政策的に推進していることに呼応しているのみならず、中小企業が自分たち自身で研究開発をするのではなく、スタートアップに任せることにより、より大きな相乗効果が得られることにもなる。零細企業から年商1億元企業に成長する過程でさまざまな経験値を持つ企業との協業は、スタートアップを成長させることにもつながる。

スタートアップの持つ先進技術を広く知ってもらうための取組も行っている。潜在的顧客となり



「KO-IN」内部（筆者撮影）



「KO-IN」内部（筆者撮影）



「KO-IN」内部（筆者撮影）

得るような企業経営者や専門家を集めた製品・技術発表会を開催することによりネットワーキングを行ったり、台湾で毎年9月頃に開催される半導体関係の大規模な展示会に出展することでネットワークを広げている。

高雄市政府による支援もある。補助金だけでなく、高雄市政府のホームページへの掲載や市政府を通じたメディアへの紹介により、高雄市政府のお墨付きのある技術としてPR効果が期待できる。また、サービスや製品の内容次第では、高雄市政府により調達される可能性もある。

加えて、「KO-IN」を運営する誠研創新はもともベンチャーキャピタルであるほか、台湾全体に企業のネットワークも有しているため、入居企業は、同社からの投資や協業する企業の紹介を受けることも可能となっている。



寛緯科技外観（筆者撮影）

② 寛緯科技股份有限公司

「KO-IN」に入居する企業の一つである寛緯科技のお話を伺うことができた。同社はチップの製造からスタートして、センサーやクラウドシステム、データコンピューティング及びAIの活用によりインテリジェント養魚監視制御システムを開発。このシステムによりユーザーは、水温、溶存酸素、pH、酸化還元電位、塩分などのデータをリアルタイムで携帯電話のアプリで監視することが可能になり、水中の溶存酸素に応じて自動給水や自動給餌を設定することができるようになるほか、飼料消費量の30%、電力消費量の50%削減を可能にした。

同社のインテリジェント養殖システムはすでに台湾全土で800以上の現場で採用されており、台湾外では、中国本土からインドネシア、フィリピンをはじめとした東南アジアの主要養殖国に400セット以上が導入されている。

同社はチップ製造に始まり、養魚場から水質監視、飼料調製、コールドチェーン物流までのワンストップ接続を提供する企業へと成長を遂げた企業であり、これにより、世界的に懸念される食糧不足や台湾の高齢化、農業や漁業におけるマンパワー不足の解決に資すると期待されている。

（後編へ続く）